

2016年度 第1回例会を 開催しました。

日 時 6月25日(土) 13:30~16:00

会 場 ウイングス京都 会議室2

【内容】

1. 留学生によるシンポジウム
2. 2016年度全国総会の報告(高橋、松田)
3. 国際交流(フィンランド・ラーティ支部会員ペリニエム夫妻との交流報告(中川))
4. その他報告

[出席者] 20名(支部会員13名、 ゲスト:留学生4名、ホストファミリー3名)

I 留学生によるシンポジウム(13:30~15:30)

氏 名	出身地	留学先と専攻
周 悦	中 国	京大院 文学部研究科 発達心理学専攻
金 ボヒョン	韓 国	京大院 機械理工学部 メカトロニクス専攻
TRINH HAI	ベトナム	京大 工学部工業化学科3回生
SUBRAMANIYAN	インド	京大院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻

司会: 中川慶子、通訳: 中川洋子

高橋副支部長の「今年度最初の例会にアジアからの留学生4名をお迎えし、高度な専門のことやお国の話などを伺えるのを楽しみにしている」との挨拶に始まり、4名の留学生の自己紹介、留学の動機、研究の内容などを10分程度話していただき、そのあと中川慶子司会による質問形式でシンポジウムを進行した。又ホストファミリーの方からは、いろいろの国からの留学生のお世話をすることの意義や貴重な体験などが話された。



周 悦さん

出身は「蘇州夜曲」の歌で知られている蘇州。いろんな点で京都によく似ており、それが京大を選択した理由の一つ。中国で日本語を勉強した後、熊本に1年留学。この時の感じた日本人の優しさ、日本での住み易さが、続いて日本での勉学することを決心させた。あちこちの大学を見て歩き、最終的に京大を選んだ。

専攻の発達心理学は、人が生まれてから死ぬまで、この世界をどのように認識し、どのように学習して発達していくかを研究する分野で、私は赤ちゃんが生まれて音楽をどのように受け止め発達していくかをテーマにしている。

日本には熊本時代から通算して5年住んでおり又、昨年日本人と結婚したこともあって留学生であるのに、海外にいる感覚がないくらいである。

日本と中国の文化の違いの中で特に感じるのは、日本人の方が繊細で思いやりがある事。

金 ホビョンさん

韓国チェジュの出身。京大院の松野研究室でロボットの研究をしている。

自分にとってのロボットはお話に出てくる魔法使いのように、人に出来ないことを手助けし人の役に立つ存在である。ロボットの学びの場を求めてインドやアメリカにも行ったが、京大を選択したのは、日本人は単なる箸一本にも魂があると思うところがあり、京大にもそういう思いを持ってロボットに対処しているのが感じられたからである。

ロボットにはいろいろあり、兵器にもなりやすい。自分が師事している京大の先生はロボットにも魂を入れた扱いをされ、ロボットは扱い方で何千人もの人を殺す事にもなる。誤った扱いの選択をしないための注意、責任があることをしっかり認識して研究することを先生から学んだ。とても尊敬している。



THRIN HAI さん

阪大で日本語の勉強をしてから、京大に来た。京都は東京と違い、物価もほどほどで、又大学と町が近く便利であるので京大を選択した。

現在学部での3年生である。勉強はまずまずで自分の中では部活(合気道)が大きなウェイト



を占めている。朝5時からランニングがあり、放課後も練習と大変であるが、礼儀や先輩後輩の関係、飲み会の事などを教えてもらった。又皆で一緒に困難を乗り越え最後までやり遂げることを体験できたのは大きな収穫である。今週から週3回実験が授業に入り楽しい。

SUBRAMANIYAN PARIMALAM SUBHATHIRAI (SUBHA 通称) さん

京大院工学研究科マイクロエンジニアリング専攻 ナノシステム創成工学講座 ナノメトリックス工学分野の生体高分子を対象としたマイクロ TAS システムの構造と原理に関する分野の小寺研究室で、細胞レベルから生体機能のシミュレーションに関する研究をしている。2016年3月28日に平成27年度工学研究科長賞を受賞した。

例会では彼女はパワーポイントで説明するつもりだったが機器の都合で出来ず、さらに

彼女が所属する研究室のスタッフは男性ばかりなので日本語で会話する機会が殆ど無く、英語での説明だった。科学の先端をゆく高度な専門研究については残念ながら十分に理解できなかった。インドでは病院で医師として働いていたとのこと。

6月例会の直前の6/10-12に彼女が presented at The 2016 International Conference of Microfluidics, Nanofluidics and Lab-on-a chip 等の記事が小寺研究室のホームページに見受けられた。

来日前は、日本には侍や忍者がいて研究室の先生も忍者とっていたとのこと。未だに日本がそのように見られていることに私たちの方が吃驚した。

自己紹介が一巡したところで司会による質問に答えるという形で会は進められた。

[質問] 京都は環境的にも良いとのことと留学先を選択されたようですが、京都での暮しで困った事や、がっかりしたことは？

[答え] 交通費が高い(乗り換えが出来ない。韓国では目的地まで100円で行くことが可能)。バスの混雑(観光客が多いので仕方がないが) 着物姿が少ない等

[質問] 学資や奨学金の利用は？

[答え] 日本の文科省の給付型奨学金(月額14~15万程度)を受けている人や企業の奨学金等を受け比較的恵まれた教育環境にあるように思えた。

韓国の奨学金制度は学業成績でなく両親の所得で判定されるので頑張っても奨学生になれない。大学の授業料は大学に申し出れば免除される。

アルバイトをすることもある。

[質問] 健康面については？

[答え] 全員健康。

時には、受診することもあるが、病院の通院に時間がかかることや診療時間の制限もあって利用し難いのが困る。全員が国保に加入。

[質問] 日本の学生についての印象は？

[答え] 頭がよく優秀なのに結婚や育児で簡単に仕事や研究を辞めるのが不思議。韓国はクオター制の導入以来、職に就く女性が多い。育児には家族のサポートが大きく、育児が理由の離職は殆どない。

[質問] お国における女性のステータスについては？

[答え] 韓国は出産休暇の保障もあり、頑張って働きたがる。男性が育休を取ることもある教職に就職するのは大変難しく、特に小学校の一年生を担当する人は高校や大学で優秀な成績の人しか出来ない。韓国では要求があるとすぐデモ。女性の問題でも男性と一緒にデモをしたり、意見も出してくれる。

ベトナムは共働きをしないと生活できない。

中国は地域によって差があるが、育児による離職は歓迎されない。

インドは階級によってずいぶん違うが、全体的に女性は優遇されている。